

千曲川

川を活かすまちづくりを

活用の方向性を検討する

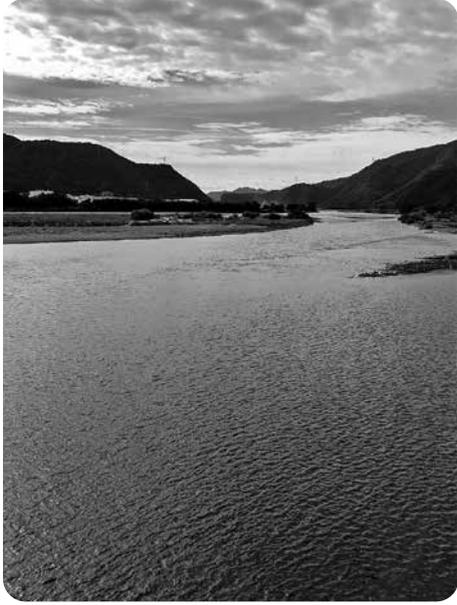


塩野入 猛 議員

問 「(仮)千曲川の恵みを取り戻す会」の発足に向けて、坂城町、上田市、千曲市により進められようとしているが、現在の状況は。

また、千曲川のにぎわいに向けた3市町での広域的な取り組みに、国交省「かわまちづくり」支援事業を取り入れるなど、千曲川を活かしたまちづくりへの考えは。

町長 中村浩志信大名譽教授の「外来魚駆除」の講演会で設立が提起され、その後、3市町の理事者、漁協、河川事務所、信



「にぎわいの復活」に期待 (千曲川)

大による準備会で賛同され、早期設立に向け準備を進めている。
また、千曲川を活かしたまちづくりについては、川と深いつながりがある資源を維持継続しながら、国が進める千曲川中流域原風景の保全とともに、広域連携などによるさらなる活用の方向性を検討していきたい。

を検討していきたい。
土砂災害対策について
問 土砂災害は開關以来何もなかった所に前触れもなく突然発生している。予測の難しい土砂災害に対する町の考え方は。
総務課長 町は有事の際の迅速な対応はもとより、住民への平時の啓発や情報提供に努めると共に、総合防災訓練や地区説明会などにおいて説明

太陽光発電

全公共施設に導入を 方法や時期など検討する



中嶋 登 議員

問 坂城小学校へ太陽光発電及び蓄電池の導入が決まった。SDGs、ゼロカーボンの時代であり全公共施設に導入を。
町長 町はスマートタウン構想事業に取り組んでおり、今後、方法や時期など検討を進める中で災害時の対応やCO2削減に

よる地球温暖化対策などを考慮して、整備を進めていく。
問 避難所となっている各区公民館へも町で補助金を出して、設置することを提案するが。
企画政策課長 公民館の増改築や改修費用の2分の1、3千万円を上限として補助するので、活用してほしい。

と 同じよう全員接種すべきであると考えている。子宮頸がんワクチンの町の接種人数の推移と今後は、保健センター所長 平成23年度延べ305人をピークに、27年度から30年度まで0人であったが、令和元年度3人、2年度7人、3年度7月末現在18人である。国は副反応の発生頻度等が明らかになるまで積極的な勧奨は行わないよう指導している。

問 私のライフワークだが、子宮頸がんワクチンが接種することで子どもの命が守られるならコロナ

町長 積極的な勧奨は行わないが積極的に説明は行っていく。



太陽光発電が設置されている中之条公民館